

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果

1 調査結果から見られる本校生徒の特徴

【国語】

国語A（主として知識）の問題では、「概ね良好な状況」であり、国語B（主として活用）問題では、「十分に満足できる状況」である。以上より「国語の学力」は定着しつつあると思われる。一方「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい」と感じており、「書くこと」「発表すること」は、今後の指導の重点としたい。

【数学】

数学A（主として知識）及び数学B（主として活用）の問題共に「概ね良好な状況」であり、「数学の学力」も定着しつつあると思われる。しかし、「関数」の領域において、これまでに取り組んだことのない傾向の問題にとまどう一面もあった。

【学習状況】

「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかった」と仲間との絆を感じている一方、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」とは言えず、「学級やグループの中で課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの活動」には課題がみられる。また「将来の夢や目標」が明確に定まっていない生徒も少なくなかった。

「地域や社会で起こっている問題や出来事への関心」「地域社会などでボランティア活動や行事に前向きに参加」など、地域社会に積極的に関わろうとする姿勢が顕著であり、本校生徒の大きな特徴と考えられる。

また、「数学の勉強は大切だ」「数学ができるようになりたい」「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないかと考える」など、前向きな学習への姿勢も感じられる。

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」との問いに対する肯定的回答が多く、教師との良好な関係も伺える。

一方、「家で、学校の授業の復習をしていますか」「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」との問いに対する肯定的回答は少なく、家庭学習や自主学習に課題があると思われる。

2 課題と今後の取り組み

【国語】

「書く力」でみられた課題は、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」である。教科の指導において、文章を短くまとめさせることが少なく、問題に慣れていなかったことが要因の一つと考えられる。

今後は各単元での読み取りの後、文章として内容をまとめさせるなど、繰り返し指導していきたい。

【数学】

「関数」でみられた課題は、「表現の説明」や「グラフの解釈」である。今回のような知識を応用する傾向の問題に取り組んだ経験が少なかったことが要因の一つと考えられる。解法を授業で繰り返し、正しく習得させたい。

今後は問題集などを活用して、新傾向の問題に取り組む機会を増やし、いろいろな応用問題に触れるよう配慮したい。

【学習状況】

「家庭における時間の使い方」「携帯電話やインターネットに関わる約束ごと」「食事の時のテレビの視聴」などは、保護者と共に考える機会を継続的に持ちたい。

塾に通う生徒が多く、自分で計画を立てて家庭学習する習慣が定着していない。塾に通うことで家庭での学習時間は少なくなるが、短時間でも毎日主体的に学習に取り組む習慣を確立させたい。具体的には課題の内容を検討し、生徒同士が相互に支えあい、効果的な活動が継続できるよう、ひとりひとりに応じた支援と励ましを行いたい。

また、放課後や自主学習時間を活用し、つまずきのある生徒への個別の対応を図り、学力向上に取り組みたい。